

## カンガルーケアに関する当院での実施法

最近、カンガルーケアに関しましては、突然死などの危険性が指摘されております。  
当院におけるカンガルーケア実施に関する見解を以下に示します。(分娩前の同意書の抜粋)

### はじめに

カンガルーケアは1978年コロンビアで保育器不足への対策から生まれ、新生児死亡率低下に効果が見られたことから世界の注目を集めるようになり、日本においても母子(親子)関係の強化を目的として広く行われるようになってきました。

### 利点

赤ちゃんの皮膚の細菌叢が母親と同様のものとなり、常在菌として定着することで感染症に強くなります。

母親との肌と肌との触れあいによって熱が伝導し、赤ちゃんが冷えにくくなります(ラジアントウオーマーよりも熱の移動が効率的)

初期の吸啜が行われることにより赤ちゃんが母親のにおいや乳頭の形を覚え、その後の母乳育児がうまくいきやすいと考えられています。

母親と子どもの絆が作られやすい

### 当院におけるカンガルーケア

出生後臍帯を切断した赤ちゃんは羊水等をきれいに拭き取り、体重・身長等の計測を行い、呼吸状態・体温など全身状態に問題なければ、赤ちゃんが低体温とならないよう分娩室の温度調節を行い、お母さんと赤ちゃんの肌と肌が触れあえるようにして、抱っこしていただきます。カンガルーケアの時間にお母さんと話し合っ決めてゆきます。もちろん、御主人や御家族の同室も可能ですので、遠慮なくスタッフまで申し出てください。また、帝王切開後のお母さんに関しましても小児科医師に相談の上、カンガルーケアを行うことができます。

### カンガルーケアを行うにあたっての注意事項

最近、カンガルーケア実施時の新生児突然死の危険性が指摘されるようになり、十分な観察下での実施が勧められています。幸い、当院では状態が悪くなった赤ちゃんはいませんが、今後も注意が必要と考えています。カンガルーケアによる合併症の多くは赤ちゃんの低体温や低血糖と掛け布団や赤ちゃんの姿勢によると思われる窒息が主な原因と考えられていますので、十分な観察によりその危険性はある程度回避できるものと思われます。

当院では、カンガルーケアによる肌と肌を触れあいというメリットの方がデメリットに比べ、はるかに大きいと考えており、今後も安全面を十分に考慮しつつ、積極的にカンガルーケアを行ってゆきたいと考えています。当院においても赤ちゃんの酸素モニター装着の導入を検討中ですが、それまではこれまで同様、スタッフとお母さんの注意深い観察により異常の早期発見につとめるよう心がけます。